

2013 年度学部長裁量経費プロジェクト

「学生・教員・市民をつなぐワークショップの展開」成果報告

リーダー：深見俊崇（初等教育開発講座）
有田洋子（美術教育講座）
石野陽子（初等教育開発講座）
香川奈緒美（初等教育開発講座）
塚田真也（自然環境教育講座）
諸岡了介（共生社会教育講座）

1. プロジェクトの趣旨

学部長裁量経費の趣旨として掲げられている「①学部の教育研究活動を一層活性化し、②全学や地域に対して学部の存在をアピールすること」を具体化する「学生・教員・市民をつなぐ場」としての映画上映会を設定・企画した。

教育をテーマにする映画の視聴を通して、学部教員・学生・大学院生が教育を再考する機会を提供することで①の目的を追求すると同時に、映画という娯楽性のある身近な素材を通して、市民と協働し教育を考える学部の姿を示すことで②の目的の達成を目指すものであった。そのための舞台として、学生・教員・市民が交流するワークショップをデザインした。教育をテーマにした上映会と連動したワークショップの開催によって、島根大学教育学部の教育・社会貢献への行動をより広く周知することにつながると考えられたためである。

また、来場者に対するアンケート調査を実施・分析することで、学部事業の広報のあり方や新たな教育活動の展開に関する効率的・効果的なアプローチのあり方を追求することも目指した。

2. プロジェクトの実際

プロジェクトの趣旨に基づいて、2013 年度内に 2 回の映画上映会を開催するとともに、学生・教員・市民が交流する場としてのワークショップを実施した（2014 年 1 月 25 日、2014 年 2 月 16 日）。

映画については、「テレビシアにかける橋」「パリ 20 区、僕たちのクラス」を選択した。いずれも多角的な視点から子どもや教育に迫る映画であり、本学の学生・大学院生・教員にとっても有意義なものであると考えられたためである。

多くの市民に大学に来訪してもらうのと同時に、教育の課題を共に考える機会を提供できる機会であるため、上映会は一般公開とした。その周知については、学部内の掲示、教職員メーリングリスト、大学ホームページ、定例の報道機関への情報提供を活用した。また、代表者である深見は、Twitter と Facebook によっても開催情報を発信した。

上映会後に開催したワークショップについては、第1回目・第2回目とも映画の登場人物を題材に分析的に捉える内容のものとした。映画を見てもその捉え方は異なるというお互いの価値観の多様性に気づくこと、子どもや教育という日本の問題と関連させることを意図して設定した。

上映会の参加者については、第1回・第2回共に約20名であり、ワークショップの参加者については、第1回・第2回共に10名であった。上映会・ワークショップに参加することで様々な学びを得ることができたとのアンケート結果からも有効な取り組みであると考えられる。また、大学外からの参加者からは、ワークショップでの学生の姿勢や対応の仕方を評価して頂いた。しかし、参加者が思うように伸びず、広報などの手段を検討・工夫することは不可欠であると考えられる。